中国の伝統的集落における窯業の現代化による歴史的景観への影響

中国陝西省関中地区堯頭村を事例として

THE MODERNIZATION OF CERAMICS INDUSTRY IN CHINESE TRADITIONAL VILLAGES AND ITS IMPACT ON THE HISTORICAL LANDSCAPE

Yaotou Village in Guanzhong area of Shaanxi province

劉 羽佳^{*1}, 岡村 祐^{*2}, 小向 光^{*3}

Yujia LIU, Yu OKAMURA and Hikari KOMUKAI

The aim of this paper is to clarify the modernization of the actual status of the pottery industry and its influence on the historical landscape in China by interviewing eight potters and conducting field surveys in Yaotou Village of Shaanxi Province. The elements of the historical landscape for the pottery industry and the modernization of the production environment are investigated; further, their influence on the traditional landscape is analyzed. Then, types, designs, and production methods of products and their influence on the landscape are looked into. In addition, the features of sales methods and distributions and their influence on the landscape are also analyzed.

Keywords: Porcelain, Preservation, Clan, Cultural landscape

陶磁器, 保全, 宗族, 文化的景観

1. はじめに

1.1 研究の背景

中国における伝統的集落は、「長い歴史の中で、立地や歴史的建造物、生業、文化、民俗等の有形・無形の要素に根ざして形成された集落^{注1)}」と定義される¹⁾。このような集落の保全のため、政府は、「歴史文化名鎮名村」「中国伝統村落（以下、「伝統的集落」）」等の保護制度を全国で展開している^{注2)}。また、2019年6月の指導意見^{注3)}では、集落保全においては、伝統的産業へ着目すべきと明記され、農業や手工業などの生業が有する文化遺産の価値が見直されている²⁾。

窯業は、地域の自然環境に根ざし、現在まで発展を続けてきた伝統的産業であり、無形・有形の価値が認められる。陝西省堯頭村は、唐代から陶磁器（本研究における磁器と砂器の総称）^{注4)}の製造・流通により栄え、中心部には賑やかな町並みが形成された。堯頭村における窯業は、作陶に関わる施設や人々が暮らす家屋などの有形要素と、人々の信仰、習慣、風俗等の無形要素にも深く影響を与えてきた。作陶に関わる施設として、中国北部特有の窯洞様式の工房と饅頭窯が利用され、生産エリアは大規模で窯の数も多く、中国北部における代表的な民窯であった。2006年に、堯頭村の窯業の生産技術は「中国無形文化遺産リスト」に記載されるが、陶磁器の内需は縮小し、伝統的な形態での窯業は衰退している。結果、堯頭村では、窯業に関連する文化の消失、伝統的な集落景観の変容、あるいは経

済の低迷といった問題に直面している。従来の集落区域は、県の中心部へのアクセスが悪く、未だインフラの一部が未整備であるなどの理由から、大半の住民は旧村に隣接する新村に居住しているため、旧村の過疎化は著しく、集落の維持は危機的な状況にある。

1.2 研究の視点

伝統的集落としての堯頭村の保全においては、伝統的生業である窯業の再生は欠かせない。その際、窯業の現代化、すなわち現代社会の需要に応じた窯業のあり方を検討することが重要であり、それが、歴史的景観にいかなる影響を与えるかを考察する必要がある。

窯業の現代化について、羽田らは作陶工程、製品、流通・販売の視点から、「機械化その他の合理化を経験した上で、現代のあり方に適合しようとする伝統工芸としての陶磁器の変化」と定義した³⁾。隼瀬は、「工芸」における「伝統」とは、単なる模倣ではなく時代に即した再解釈と創造を行い、「素材」「技術・技法」「用」を維持しながら、継承・形成されてきたものと論じた⁴⁾。中国・景德鎮における窯業再生の成功事例にみるように、伝統的生業である窯業の再生を進めるには、小規模経営の工房での伝統の継承が重要な一方で、現代の生活スタイルや需要を考慮した個性的なデザインの陶磁器の生産及び合理的で効率の良い生産手法も重要である⁵⁾。

堯頭村でも、生活スタイルの変化、生産設備の機械化、近年の観光開発により、窯業のあり方は変化しつつある。本研究では、既往

^{*1} 東京都立大学大学院都市環境科学研究科観光科学域
博士後期課程・修士(環境科学)

^{*2} 東京都立大学大学院都市環境科学研究科観光科学域
准教授・博士(工学)

^{*3} 東京都立大学大学院都市環境科学研究科観光科学域
博士前期課程・学士(観光科学)

Ph.D. Candidate, Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, M.Env.

Assoc. Prof., Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, Dr.Eng.

Grad. Student, Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, B.Tourism Science

研究で言及されている「経営形態」「技術」「製品」に加えて、歴史的景観や産業としての発展に重要な「生産環境（空間）」「流通・販売」も現代化の対象として捉える。

1.3 研究の目的と論文の構成

以上の背景を踏まえ、本研究では、中国陝西省澄城縣堯頭鎮の堯頭村を研究対象とし、現在の社会・経済状況下での伝統的窯業の継承と変化に着目し、陶磁器の生産環境、生産手法・デザイン、流通・販売手法の現代化の実態と、それが堯頭村の歴史的景観へ与える影響を明らかにすることを目的とする。具体的には、2章では、堯頭村や堯頭村における窯業の概要及び歴史的景観の整理を行い、3章では生産環境（経営及び空間面）、4章では製品の特徴と作陶手法、5章では陶磁器の販売・流通手法に関して、各々現代化の実態と歴史的景観への影響を考察する。

1.4 調査の方法

2017年から2019年の間に4回の現地調査を行った。2017年2月、澄城縣の規画局と文化局を訪問し、既往の保護発展計画¹⁴⁾、堯頭窯を対象とした「観光計画」、住民と行政が連携して記録した堯頭村の風習や陶磁器に関する資料¹³⁾を入手した。また、同年10月には、集落の公務員や名望家、住民へのヒアリング調査を行った。2018年3月には、当時操業中の全窯元（6箇所）に対して現地踏査とヒアリング調査を行い、窯元敷地の平面構成と作陶工程を記録した。2019年2月には、新規開業の2箇所の窯元を含む全8箇所の窯元とその展示室への現地踏査及びヒアリング調査を行った。

1.5 既往研究と研究の位置づけ

本研究に関する既往研究は主に3つの視点から整理できる。第一に、山口ら⁶⁾、丸谷ら⁷⁾の窯業を基盤とした伝統的集落の保全に関する研究があり、作陶工程と集落景観との関係性を解明したが、流通・販売等への言及はない。また、中国の伝統的集落を対象とした窯業の作陶工程・空間を研究は少ない。第二に、窯業の現代化についての研究があり、前述の羽田ら³⁾、隼瀬⁴⁾、方ら⁵⁾、轟ら⁸⁾は、伝統の合理的な継承、窯業の現代化と現代の地域社会との側面を主に考察したが、作陶空間及び生産環境の現代化と集落保全を含めて扱った研究はない。第三に、本研究の対象地である堯頭村に関する研究には、地域の景観の特徴⁹⁾やエコミュージアムの視点¹⁰⁾、また、堯頭窯跡の歴史的価値¹¹⁾と陶磁器の芸術的価値¹²⁾を論じたものがあるが、作陶から流通までの全プロセスを通じた考察や、歴史的景観の視点から窯業を捉えた集落保全に関する研究はまだない。

本研究では、上記の作陶工程と集落保全との関係性及び、窯業の現代化に関する理論を踏まえ、既往研究が注目する窯業の現代化の視点に、生産環境（空間）や流通・販売手法も加え、それらが歴史的景観に及ぼす影響を考察することに新規性を見出させる。

2 堯頭村の概要

2.1 堯頭村の立地と略史

堯頭村は、県の中心部から約10kmの距離にあり、省都の西安市へは車で3時間半程である（Fig. 1）。古来より流通・往來の要所であり、集落の中央に位置する「老街」と呼ばれる旧商業地区には街道が通る。堯頭村は、尾根と谷が縦横無尽に走る黄土高原の中に位置し、集落が階段状の斜面地に形成されているため、窯洞（ヤオトン）と呼ばれる陝西省北部に多く見られる洞穴式建築が並ぶ^{注5)}。一方、省中部

Fig. 1 The location of Yaotou village

では中庭型の合院式の空間構成が一般的であり、双方の様式を合わせた窯洞＋合院式という空間構成も顕著である。堯頭村の年間降水量は少なく、高木の成長や農作物の栽培には不適なため、豊富にある黄土や鉱物資源を利用できる窯業を生業とし、陶磁器の生産地及び集散地として発展し、陶磁器の用途・デザインの一部は、地域の伝統的な食文化や生活習俗との関係も深い。

文献資料^{13,14)}に拠ると、堯頭村は漢代に興り、早期の人口は少なく、集落北西部の後河沿いに集住した。明代の「澄城縣誌」には、唐代に人口が増加し集落範囲は中央高地へと拡大し、作陶空間と生活空間が徐々に離れたと記されている。中国全土において窯業が盛んになる明代嘉靖期（16世紀中葉）及び清代咸豊期（19世紀中葉）に、堯頭村の窯業も繁栄し、清代には磁器の種類が増え、新たな作陶技術も生まれた。中華民国（1912～1949年）以降は生活スタイルが変化し、伝統的陶磁器の需要が落ち込み、生産量が減少した。また、同時期に石炭採掘が盛んになり、集落の生業は多様化した。1958年人民公社の発足により、窯元の家族経営は禁止され、また国営企業としての県陶磁器生産工場が設立され、伝統的な宗族分担作業制度はほぼ消失した。1978年の改革開放以降かつての個人経営の窯元は再開されたが、伝統的な陶磁器の内需縮小により、2000年前後には窯元は一箇所のみとなった。県陶磁器生産工場もその頃閉鎖された。この時期は、窯業の衰退の一方で、人口は1975年以降増え続け、多くの住民は新村へ転出した。集落範囲は、従来の旧村からその東側及び周辺の新村へと拡大し^{注6)}、旧村の空洞化が進んだ。

2013年5月には、旧村の古窯跡が「全国重点保護単位」^{注7)}に選定された。近年、農山村集落地域における文化遺産の再評価により、堯頭村は2013年に「伝統的集落」、2014年に「歴史文化名鎮」のリストへ記載された。それらを受けて、集落保全事業や観光開発が展開され、後者の保護計画により、堯頭村旧村全体が核心保護区となり、かつての周氏、宋氏、杜氏の生活エリア（一部は現在も居住）を含む生産エリアは遺跡として保護された。また、歴史的町並みとしての老街の建築物や窯業関連施設の整備事業が行われてきた^{注8)}。このような法制度や事業進展の影響もあり、かつて窯業に従事していた複数の住民ら（職人含む）が集落へ戻り、窯元を再興している。

2.2 堯頭村における伝統的な産業としての窯業

2.2.1 作陶工程と作陶空間

堯頭村の窯業の最盛期（明清代）には、集落の中央高地にある老街を中心に、その南・東側及び北東側には各宗族の生活空間があり、集落北西部の後河沿いの地域に、生産エリアが広がる。伝統的な作陶工程と作陶空間が確立されたのもこの時代である。1958年以前は、後河周辺の高地で原土を採取し、その近くの沈殿池において川の水を利用した水簸が行われた。各作陶区（2.2.2で後述）には、窯元が

Fig.2 The spatial layout of ceramic industry and settlement at the most prosperous period

Fig.3 The section view of Yaotou village at the most prosperous period

集積し、各窯元には成形から、乾燥、施釉、焼成までの各工程のための工房が備えられていた。工房には、洞穴形式の窯洞が利用された。その内部の入口左右には成形のためのロクロがあり、装飾や施釉も工房内または屋外で行われ、主屋の隣に掘られた別の窯洞では、乾燥が行われた。焼成は、階段状の崖に建てられた丸型の饅頭窯を利用し、一般的には石炭を燃料として1250～1280度で焼成された^{注9)}。以上から、原土の採取地、川、沈殿池、窯洞、乾燥用の空地又は倉庫、饅頭窯を堯頭村における窯業の構成要素として特定することができる (Photo1)。

2.2.2 宗族による分担作業制度

明代に、白氏、李氏が陝西省と隣接する山西省から堯頭村に転入してきたことで集落は拡大した。また、宗族ごとに担当する作陶工程や生産可能な陶磁器の種類を制限する宗族分担作業制度はこの時期に成立し、同時に生産と生活の空間が区分された。前者は、後河沿いに居住する西坂村村民による原土の採取及び水簾・土作りを行う空間、そして、宗族毎に分けられた4つの作陶区から構成された^{注10)}。集落北東側の白氏の白家城城南の窪地付近に砂器を生産する砂窯区がある。また、老街北側の黒窯区では、李氏、宋氏、白氏により小さな壺や香炉等の黒磁器が生産された。これと隣接して、李氏、宋氏宗族によって民用の茶碗を生産する碗窯区がある。甕窯区は集落南西側に位置し、龍湾と周家洞の一带に住んでいる周氏、杜氏によって大型の水甕が生産された場所である。老街の売店では、宋氏により陶磁器の販売が行われ、陸運と水運で中国北部へも流通した。Fig.2は、集落の最盛期の状況として「澄城県堯頭歴史文化名鎮保護計画」に掲載されている「建築実態図」を元に作図したものである^{注9, 10, 13, 14)}。

このように、堯頭村では自然環境に根ざした作業環境が整備され、生産技術向上と住民の増加及び陶磁器の需要拡大により、窯業は発展した。また、先述のように宗族分担作業制度は、集落の発展段階

Photo 1 The current production area

Photo 2 Old Street and Ancestral Temple of the past
From [Yaotou memory], Mao, Z.A. and Lee, Y.L. and Jin, J.R., 2011

において、集落の空間構成に影響を及ぼしたと考えられる (Fig.2)。

2.3 堯頭村の歴史的景観の特徴

上記を踏まえ、堯頭村における代表的な歴史的景観を整理する。ここでいう歴史的景観とは、窯業最盛期の土地利用、町並み、建築物等が継承され、往時の状況を垣間見れる景

観のことである。なお、本稿では、作陶や流通・販売に関わる歴史的景観を主とし、宗族ごとの居住区については扱わない。

最盛期の集落の断面を示したのが Fig.3 であり、後河 (現在は消失) が形成する谷地形に窯元が集積していた。なお、Fig.3 及び4におけるⅠ, Ⅱは対応関係にある。窯業の衰退に伴い、生産エリアの荒廃が進んだが、窯跡の「全国重点保護単位」指定などを経て、現在は、遺跡としての保存・整備が進められている。生産エリアの歴史的景観の特徴として、以下の点を指摘することができる。1) 階段状の地形を利用して建設された窯洞が並んでいる。2) 窯元は、敷地奥側の崖に沿って窯洞が設けられ、前面に平坦な中庭を有する「半囲み」空間であり (Fig.4)、その下層には、傾斜面を利用した饅頭窯がある。3) 中庭の端には、下層に下りる細い坂道が設けられている。階段状地形の中間層には道路があり、中間層にある窯元は、通りと直接面している。4) 窯元の工房や倉庫として利用されてきた窯洞^{注11)}の多くは、窯業の衰退により使われていない。5) 窯洞のファサード、饅頭窯、道路側の垣の建造材料として、集落の至るところで匣鉢 (陶磁器焼成の際に用いる耐火性の容器) や磁器の残片とレンガが用いられている。

集落中央の平坦な高地に東西に広がる老街は、2層 (老街Ⅰ・Ⅱ) の階段状地形に構成され、最盛期には、様々な店舗が立ち並び、とりわけ老街Ⅱでは、陶磁器販売で賑わったが、新村への移住や窯業の衰退を経て、飲食店や日用品店が多く、祠堂などもあった上層 (老街Ⅰ) (Photo2)、及び下層 (老街Ⅱ) の店舗共に、廃墟化が進んだ^{注12)}。しかし、法制度整備や補助金を伴う町並みの関連事業の進展に伴い、近年、少しずつではあるが、通りに賑わいが戻ってきた。これらの経緯を踏まえ、老街における歴史的景観の特徴として、以下の点を指摘できる。1) 通り沿いには、修復・再建された店舗が立ち並び、歴史的町並みが形成されている。2) 老街Ⅰでは、店舗の典型的な敷地構成として、背部に住居を有する「窯洞+合院式」の「全

囲み」空間が維持されている (Fig. 4)。3) 再建された町並みに、飲食・日用品店 (老街 I) や陶磁器販売店 (老街 II) が一部再生され、銀行や祠堂などの特異な建築物はランドマークとなっている。

3 堯頭村における窯元の生産環境

3.1 窯元再興の経緯

堯頭村における窯元の再興経緯や生産環境 (空間及び経営面での特徴) の現状を明らかにするために、2018 年 3 月と 2019 年 2 月に現地踏査を行い、窯元の位置、作陶工程と空間構成との関係、生産される陶磁器の種類を把握し、ヒアリング調査により、窯元の再興経緯、経営形態、宗族や行政との関係、生産される陶磁器の特徴 (4 章)、販売・流通手法 (5 章) 等に関する情報を収集した。

現在操業中の窯元は計 8 箇所あり、窯元①洛潤黒磁・周家老作坊 (以下窯元①)、窯元②陝西堯頭陶瓷文化發展有限公司・白家磁坊 (以下窯元②)、窯元③潤昌德 (以下窯元③)、窯元④南関磁坊 (以下窯元④)、窯元⑤鴻運来 (以下窯元⑤)、窯元⑥睿隆坊 (以下窯元⑥)、窯元⑦白氏黒砂 (以下窯元⑦)、窯元⑧周氏父子 (以下窯元⑧) である。前述のとおり、堯頭村の伝統的窯業において、成形や施釉などの各作陶工程を行う工房の集積が窯元であり、それらが集積して、宗族ごとの作陶区が形成されてきた (Photo1)。現在でも、一つの窯元は複数の工房から構成されているが、一部は、かつては窯業以外の用途にも使われていた施設を転用したものである。

再興経緯について、窯元①は、1958 年以前から現在に至るまで、家族によって継承されてきた窯元を継続利用している。その他 7 箇所の窯元は、主に 2013 年以降、文化遺産保護の展開及び行政支援により再興された。窯元②は、堯頭窯の伝統的技術が「中国無形文化遺産リスト」記載後設立され、かつての窯神廟跡に建てられた小学校跡地に開業した (建物の一部転用)。開業に際し、行政から企業向けの経済的支援を受けた。堯頭窯の観光資源化が進む中で、観光管理センターや行政、専門学校と連携し、技術研修会や窯神祭をよく開催している。窯元③④⑤の経営者は、集落の「伝統的集落」及び「歴史文化名鎮」への登録を契機に開業した。窯元③⑤の敷地は隣接し、白氏の旧居住区に位置する。窯元③は白氏の旧民家を転用し、窯元⑤は民家の敷地を一旦更地にした後、複数の窯洞を新築した。さらに、観光開発の影響を受け、2017 年以降に個人型の窯元⑥⑦⑧が開業した。窯元⑥は、碗窯区の親戚所有の廃窯を再利用し 2017 年に開業した。窯元⑦は、旧生産合作社^{注 13)}の空き窯洞を再利用し 2018 年春に開業し、経営者は中国南部の陶磁器生産地で新たな作陶手法及びデザインの調査を経て、2019 年 1 月に開業した。同年窯元⑧は、合院様式の周氏旧住宅を転用し開業した。全窯元の職人は、新村に居住し、毎日通勤している (Table1)。

3.2 生産環境の現代化

3.2.1 経営面の特徴

窯元①③⑥⑦⑧は、集落住民が経営者と職人を兼任する個人型の窯元である。窯元②④⑤は集落住民 (窯元②④) または集落外住民 (窯元⑤) が経営を専任し、集落住民を職人として雇用する企業型の窯元である。職人を含む窯元の総従業員数は、企業型は 20 人以上であり、担当作業は販売、管理、作陶等明確に分けられ、作陶も工程別に担当職人がいる。個人型窯元には、2 人程の職人がおり、上記の全工程を 1 人で行う。職人の作陶技術は、個人型の場合、国家、省、県級レベルの職人が多く、少数ながら弟子もいる^{注 14)}。企業型の窯元は、いくつかの窯元に県級レベルの職人がいるが、認定を受けていない職人のみの窯元もある。窯元⑤以外の 7 箇所の窯元は、集落に居住する李、周、白、宋、劉氏のいずれかが経営している。

経営面の現代化における特徴は 2 点ある。第一に、経営形式について、伝統的な宗族分担作業制度の下で家族経営されていた小規模工場から、個人型または企業型の窯元への転換があった。宗族分担作業制度は失われ、各窯元は陶磁器の種類を制限されることなく、自由に黒磁器や茶碗、壺等の陶磁器の生産が可能となった。第二に、単独の宗族による経営や子孫への継業の強制がなくなり、集落住民のみならず、外部者 (窯元⑤) が、窯元の経営者や職人となる場合も見られ始めた。経営者属性が多様化した一方で、集落内の若者の作陶技術習得の意欲は弱く、人材育成面での課題がある。また、新規の個人型の窯元に対する起業や経営の支援が欠けている。

3.2.2 空間的特徴

空間面での窯元の生産環境の実態を把握するために、各窯元の施設配置図 (Fig. 6) を作成した。いずれの窯元も階段状の地形を利用した窯洞を多様な目的 (工房、事務室、展示室) で利用し、敷地全体は、中国北部の建築的特徴である合院式の空間構成である。

空間面における現代化の特徴として、以下 3 点を指摘できる。第一に、立地については、かつて水簸などを行っていた後河周辺及び成形から焼成までを行っていた宗族ごとの 4 箇所の作陶区は、現在は遺跡として保護されている。自動車や機械設備 (水道、攪拌機、ロクロ、水簸用の機械等) の導入により、原料地や川など自然資源から離れた場所でも作業が可能になり、旧村中心部の老街周辺と観光客向けの集落の入口付近などの旧村のかつての生活エリアを中心に窯元が再興し、ここには少数ながら、現在も住民が居住している。

第二に、窯元の敷地内の空間構成に関して、かつては小規模敷地内で効率的に作業を行うために、二面が窯洞で、道路側が開けている「半囲み」の空間構成 (Fig. 4) であったのに対して、企業型の窯元②④⑤の敷地 (Fig. 6) では、敷地規模が拡大し、道路沿いにも施設を配置した「全囲み」空間へと変化し、敷地の閉鎖性が強くなった。また、各工程ごとに別の職人が担当するようになり、敷地内の工房や窯の数も増加している。

第三に、作陶工程と作陶空間との関係についてである。現在、概ね全ての窯元は、原土の乾燥、水簸、土作りを敷地内の中庭、成形や施釉を窯洞様式の工房内で行う。成形後の生地乾燥には、工房隣接の倉庫を利用することもある。企業型の窯元は、作陶工程の現代化に伴い、施設内に機械化した攪拌機やロクロを導入し、水簸用の沈殿池、ガス窯や工房などの設備、また事務室や観光客向けの屋内・屋外展示室、体験及び飲食スペースも増設した。個人型の窯元①③も、

Fig.5 The spatial layout of the current situation of ceramic industry

Fig.6 The layout of the pottery sites

Table 1 The present situation of each pottery's production environment

窯元 / Pottery		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
名称 / The name		洛陽黒磁・周家老作坊	陝西堯頭陶瓷文化发展有限公司(白家磁坊)	周昌徳	華盛陶瓷会社 (南関磁坊)	鴻運来	香隆坊	白氏黒砂	周氏父子
経営形態 / Management style		個人 Self-employed	企業 Enterprise	個人 Self-employed	企業 Enterprise	企業 Enterprise	個人 Self-employed	個人 Self-employed	個人 Self-employed
位置 / Location	現在 / now	遺跡の窯窯区 Um kiln area	窯神廟旧跡 The historic site of the temple	観光客向けの集落の入口 Near the entrance for tourists	南関 Nanguan	観光客向けの集落の入口 Near the entrance for tourists	宋氏祠堂の付近 Near the Song's temple	観光客向けの集落の入口 Near the entrance for tourists	龍湾 Longwan
	敷地の元々の用途 / The original function of the site	1958 年以前から窯元 Existed before 1958	元の窯神廟(窯業の神様を祀っている)が、1940 年代前後に建設され、その後廃校した小学校の敷地 / The original kiln shrine was built around the 1940s, then changed into a primary school. Renovated into a private house that used to be a courtyard building	かつての白氏の民家(合院式)の敷地 / Site of former family Bai's house(courtyard building)	不明 Uncertain	かつての白氏の民家(合院式)の敷地 Site of former family Bai's house(courtyard building)	碗窯区にある廃窯となった劉盛(宋氏)の窯元 / Reuse of abandoned kiln in the former bowl kiln area	元々の生産合作社の旧址 The former site of the producer cooperatives	周氏の旧宅(四合院式) Mr Zhou's former house(courtyard building)
設立時期 / Time of Establishment			2009	2012	2013	2013	2017	2018	2019
設立経緯 / Establishment process		1958 年以前から存続 Existed before 1958	行政からの支援と無形文化遺産制度の影響 Administrative support and the impact of the intangible cultural heritage system	行政からの支援、観光施策と伝統的集落制度の影響 Administrative support, tourism measures and the impact of the traditional Chinese village system	行政からの支援、観光施策と伝統的集落制度の影響 Administrative support, tourism measures and the impact of the traditional Chinese village system	行政からの支援、観光施策と伝統的集落制度の影響により、外部者から成立した Due to administrative support, tourism measures and the impact of the traditional Chinese village system, outsider came here set up his company	観光施策の影響 Tourism measures	観光施策の影響 Tourism measures	観光施策の影響 Tourism measures
施設 / Facility	工房 / Workshop	●	なし None	●	なし None	なし None	●	●	●
	工房(細分化) / Workshop (Subdivision)	なし None	●	なし None	●	●	なし None	なし None	なし None
	饅頭窯 / Coal kiln	●	●	●	●	●	●	●	なし None
	ガス窯 / Gas kiln	なし None	●	●	●	●	なし None	なし None	なし None
	展示室 / Exhibition room	●	●	●	●	●	なし None	なし None	なし None
	事務室 / Office	なし None	●	なし None	●	●	なし None	なし None	なし None
	観光施設 / Tourism facilities	なし None	● 体験 Experience facility	なし None	体験・レストラン ● Experience facility・Restaurant	● 体験 Experience facility	なし None	なし None	なし None
	その他 / Others	なし None	● 寮 Dormitory	● 生活空間 Living space	なし None	なし None	なし None	なし None	なし None
従業員数(職人) / Numbers(Craftsman)		2 (2)	20	2 (2)	20 (11)	28 (15)	2 (2)	9 (8)	2 (2)
職人の後継者のレベル / Successor's level		周氏 (70代、国家級) Zhou (In his 70's, Nation-level)	白氏 (県級) Bai (County-level)	劉氏 (省級) Liu (Province-level)	不明 (70代、省級) Uncertain (In his 70's, Province-level)	なし None	宋氏 (県級) Song (County-level)	なし None	なし None
弟子 / Disciple		職人の娘(1人) Craftsman's daughter	なし None	なし None	なし None	なし None	息子(2人) Son	なし None	なし None
経営者の宗族 / Manager's clan		周氏 Zhou	白氏 Bai	劉氏 Liu, 周氏 Zhou	李氏 Lee	外部者 Outsider	宋氏 Song	白氏 Bai	周氏 Zhou
職人の宗族 / Craftsman's clan		周氏 Zhou	白氏, 周氏, 李氏 Bai, Zhou, Lee	劉氏, 周氏 Liu, Zhou	李氏, 白氏, 袁氏, 楊氏 Lee, Bai, Yuan, Yang	雷氏, 白氏, 李氏, 杜氏, 劉氏 Lei, Bai, Lee, Du, Liu	宋氏 Song	外部者 Outsider	周氏 Zhou
行政支援(後継者の選定、補助金、展覧会の推薦) / Administrative support		●	●	●	なし None	●	なし None	なし None	なし None
イベント等 / Event		小中学校の見学 / Primary and secondary school students visit and learn	芸術学院との連携、窯神廟など Collaboration with art college, Temple's festival	芸術学院との連携 / 小中学校の見学 / Collaboration with art college / Primary and secondary school students visit and learn	芸術学院との連携 Collaboration with art college	小中学校の見学 / Primary and secondary school students visit and learn	なし None	なし None	なし None

窯洞形式の展示室を増設している (Fig. 5, Table1)。

3.3 窯元の生産環境の現代化による歴史的景観への影響

生産環境の現代化について、まず、経営形態は個人型と企業型に分けられ、後者は比較的従業員数が多く、作陶工程の分担化、機械設備の導入等が顕著であり、また、観光地化の影響により、窯洞が展示室等の新たな機能を持つようになった。このような生産環境の現代化において、1) 地形を利用した窯洞や饅頭窯については、その継承が随所に見られる。2) 窯元の敷地構成については、個人・企業型に関わらず合院式の平面構成や中国北部特有の窯洞が継承されている一方で、特に企業型の敷地規模は拡大し、「全囲み」空間が一般的になりつつある。3) 利便性を勘案し、最盛期のような階段状地形の中間層に立地する窯元は減少し、主要道路に隣接する窯元が大半を占める。4) 再興した窯元には、旧生活エリアに点在する旧民家や旧窯神廟、廃窯となっていた建物の一部を活用、または展示室に転用する例が見られる。5) 伝統的な建築材料を用いて饅頭窯や作陶以外の機能(展示室、事務室、レストラン等)を担う窯洞の新築が見られた。一方、中庭ではコンクリート製の構造物の設置がされるなど、敷地内の構成要素の変化もみられる。

4 堯頭村における製品の特徴と作陶手法

4.1 陶磁器の種類・デザイン

堯頭村の窯業は古来より堯頭窯と呼ばれ、多くの窯元は、日用品として使われる製品を生産していた。堯頭村で生産される陶磁器の形状や意匠は今でも粗野で古めかしく、磁器については、中国の陶磁器の分類では、「粗磁」に属する。原土と釉薬の原料は、堯頭村で採掘され、前者がカオリン石、後者は酸化鉄を含有する鉱石である。酸化鉄を含む黒色の釉薬の作用により、堯頭村の代表的な磁器は黒

磁器である。磁器以外には、陶器に分類される砂器が少量生産され、伝統的な砂器は、白氏宗族のみが生産していたが、現在は新設の窯元⑦において、現代的デザインの砂器が生産されている。

窯元と展示室へのヒアリング調査及び堯頭村の伝統的な陶磁器についての言及がある文献資料¹⁵⁾から、各窯元で生産されている陶磁器の種類とその販売割合を作成した (Table2)。一般的に、壺や面盆、民用の老碗、筆立て等の文房具、香炉等の磁器と、少量ではあるが砂鍋を生産している。これらは、古来より継承されてきた伝統的な種類・デザインの陶磁器である。その他湯飲みや急須などの日用品、瓶、置物などの工芸品、記念の皿等、現代の暮らしに合うような種類・デザインの陶磁器も生産している (Photo3)。

概ね全ての窯元において、伝統的な種類・デザインよりも、現代的種類・デザインの磁器の販売割合の方が高いが、企業型の窯元④⑤は、両方を同程度販売している。窯元①②⑥は、生活用品や工芸品等の現代的な種類・デザインの磁器を大量に生産している。2018年新設の窯元⑦は、多様な現代的種類・デザインの砂器及び少量の磁器を生産する。窯元③は、デザインごとの明確な販売割合の情報は得られなかったが、伝統的・現代的種類・デザインの磁器の両方を生産していることが判明した。

4.2 伝統的作陶手法と現代的作陶手法

堯頭村の窯業に関する文献資料^{9,13,14)}と現地調査に基づき、現在の窯元における作陶手法は、伝統的/現代的作陶手法に分けられると考えた。具体的には、磁器の伝統的作陶手法は、原土の採取から焼成までの全工程を、職人1~2人で行う。基本的には、石炭を燃料に、饅頭窯で、4日間ほど高温焼成(1200~1280度)し、その後、3日間自然冷却をする。高温焼成により、酸化鉄を主成分とする釉薬に窯変が起こりやすく、仕上がり質や芸術的価値が高い。

Table 2 Sales proportion of pottery's porcelains and target customers

Table 2. Sales proportion of pottery's products and target customers											
陶磁器の種類 / Types of porcelain	伝統的な種類・デザインの陶磁器 /Traditional types and design				現代的な種類・デザインの陶磁器 /Modern types and design				その他 / Others		
	生活用品 /Life supply		文具具 /Stationery		祭祀の用品 / Worship supply		生活用品 /Life supply				工芸品 /art craft
	壺 /Pot	面盆 / Wash basin	老碗 / Old bowl	筆立て / 筆洗 Brush pot / Writing-brush washer	香炉 / Censer	湯のみと急須のセット / Teacup and teapot	湯のみ / Teacup	瓶 / Bottle	置物 / Decoration	記念の皿 / Commemorative Plate	
窯元①周・個	○ (10%) (集) (観)		○ (10%) (観)			○ (60%) (県) (外) (観)		○ (10%) (観) (外)			○ (10%)
窯元②白・企	○ (10%) (集)		○ (5%) (県)	○ (5%) (県) (観) (外)		○ (30%) (県) (観)		○ (30%) (観) (外)			○ (20%)
窯元③割・個	○ (集) (外)		○ (外)			○ (旧) (新) (県) (観) (外)	○ (観) (外)	○ (観) (外)			
窯元④李・企	○ (20%) (集) (観) (外)			○ (20%) (県) (観) (外)	○ (旧)	○ (30%) (外) (観)		○ (15%) (観) (外)	○ (15%) (県) (外)		
窯元⑤外・企	○ (7%) (集) (外)		○ (14%) (集)	○ (21%) (県) (観) (外)		○ (36%) (県) (外) (観)		○ (22%) (観) (外)			
窯元⑥宋・個	○ (10%) (集) (観)		○ (5%) (観)	○ (20%) (観) (外)		○ (40%) (県) (外) (観)		○ (20%) (観) (外)			○ (5%)
窯元⑦白・個						○ (80%) (観)		○ (20%) (観)			

* 注：① 主な購買者の類型（略称）：観光者（観）、県民（県）、県以外の人（外）、新戸村住民（県）
② 窯元③は、見本を展示し予約することと磁器を売っている。伝統的な石炭で焼くために、毎回の磁器の成功率は不確実性が強いということである。具体的に磁器の生産の比率が統計できないが、予約する磁器の種類がわかった。
③ 窯元⑧は、2019年設立した窯元のため、調査の時期には販売割合に関する情報がなかった。

* Notes
①Main types of customers(abbreviated): tourists(T), county residents(C), outsiders(O), new and old village residents(V)
②Kiln 3 sells porcelain by showing samples and making appointments. It is hard to ensure that pottery could be succeed in making at each time, because it is fired with traditional. Although it is impossible to calculate the specific proportion of porcelain production, it is possible to know which types of porcelain are often reserved.
③Due to the Kiln 8, was set up in 2019, there is no information about the proportion of sales in the present.

* 注：1) 主な購買者の類型（略称）：観光客（観）、県住民（県）、県以外の人（外）、新旧村住民（集）
2) 窯元③は、見本を展示し予約することで磁器を売っている。伝統的な石炭で焼くために、毎回の焼いた磁器の成功率は不確実性が強いということである。具体的に磁器の生産の比率が統計できないが、よく予約する磁器の種類がわかった。
3) 窯元⑧は2019年に設立した窯元のため、調査の時期には販売割合に関する情報がなかった。

* Notes
1) Main types of customers (abbreviated): tourists (T), county residents (C), outsiders (O), new and old village residents (V)
2) Kiln sells porcelain by showing samples and making appointments. It is hard to ensure that pottery could be succeed in making at each time because it is fired with traditional coal. Although it is impossible to calculate the specific proportion of porcelain production, it is possible to know which types of porcelain are often reserved.
3) Due to the kiln's was set up in 2019, there is no information about the proportion of sales in the investigation period.

Photo 3 Types of porcelain

これに対して磁器の現代的作陶手法においては、基本的な工程は変わらないが、各工程（成形、装飾、施釉等）を担当する専門の職人がある。基本的には、石膏の型で成形し、乾燥、装飾、施釉をしてから、ガス窯を利用して、1000 度程度で3日間程度焼成する。伝統的作陶手法と比較すると、設備の機械化や分担制により作業時間が大幅に削減され、大量生産も可能である。そのため、種類やデザインが豊富であり、かつ低価格で市場に流通可能である。ただし、伝統的作陶手法で生産された磁器と比較すると、低温で焼成されるために窯変が起こりやすく、芸術的価値が高いとは言えない。

他方、砂器の伝統的作陶手法は、磁器とは異なり、成形した砂器を、棒状の道具を使いながら一つずつ小さな窯の中に入れ、1200 度程度の高温で夜間に3日間焼成するが、現在この手法はあまり使われていない。現代的手法は、成形した砂器を一度にガス窯の中に置き、4度/分の速度で1250 度程度まで加熱し、その温度を80 分間保ち、自然冷却して窯から出すというものである。現代作陶手法では、大量生産が可能で高品質であるが、伝統を継承していないと言える。

4.3 作陶手法及び製品の種類・デザインの現代化からみた窯元の類型化

上記の陶磁器の種類・デザイン（4.1）と作陶手法（4.2）に関して、伝統的か現代のかという視点から、8箇所の窯元を4つに類型化し、各類型の特徴を考察する（Fig. 7）。

タイプ i： 伝統的作陶手法により、伝統的および現代的な種類・デザインの磁器の両方を生産する窯元であり、窯元③が該当する。このタイプは、原土採取から饅頭窯での焼成までを一人の職人が行う。また、伝統的磁器に加え、伝統的デザインを取り入れた現代的デザインの磁器も生産している。職人は、省級無形文化遺産後継者であり、生産技術及び装飾技術のレベルが高い。よって、タイプ i の窯元により作陶された磁器は、文化的価値と芸術的価値ともに高く、器の愛好家や専門家、磁器の作家、集落住民の中で知名度が高い。

タイプ ii： 現代的作陶手法により、主に現代的なデザインの磁器を生産し、伝統的デザインの磁器も少数生産する窯元であり、窯元④⑤が該当する。企業型の窯元であり、敷地規模が大きく、各作陶工程ごとに工房が設置され、経営者は新村住民である。現代的作陶手法を用いるため、低コストで、伝統的・現代的種類・デザインの磁器の両方を大量に生産することができ、市場での流通量を保持できる利点がある。しかし、ガス窯を利用するため、窯変は起こらず、

Fig.7 Four types of eight potteries from the viewpoint of production method and design

仕上りの質や芸術的価値が高いとは言えない。

タイプ iii： 伝統的作陶手法により、主に現代的種類・デザインの磁器、とりわけ生活用品を生産する窯元であり、窯元①②⑥⑧が該当する。窯元②を除いて個人型窯元であり、その中で窯元⑥⑧は伝統的集落における無形文化遺産の再評価と観光開発のうねりの中で設立された。このタイプの窯元で生産される磁器は、文化的・芸術的価値は低いものの、大量生産ができないために販売価格が高い。

タイプ iv： 現代的作陶手法により、現代的種類・デザインの砂器のみを生産する窯元であり、窯元⑦が該当する。砂器は、かつては白氏が生産を担当し、現在は、土産や贈答目的の湯のみや急須及び置物等の現代的な工芸品が生産されている。なお、窯元⑦は元々四川省での作陶経験がある職人を雇用している。

4.4 作陶手法と製品の現代化による歴史的景観への影響

製品の現代化については、原土、黒磁器の釉薬素材及び、デザインを継承しながら、現代の生活スタイルに合わせた種類の陶磁器や鑑賞性の高い陶磁器の生産が行われている。宗族分担制度消失以降も基本的な作陶工程は変わらない一方で、工程ごとに別の職人が担当し、また機械設備やガス窯の導入が行われてきた。

以上のような作陶手法及び製品の現代化に伴い、生産エリアの歴史的景観に対して、以下の3点の影響を及ぼしていると考えられる。
1) 水簸や土づくりなどの工程において、自然資源への距離的な依存度が小さくなり、作陶関連の景観は窯元内に集中するようになった。
2) 各工程に一つの工房が必要になり、それに伴って、かつての別用途の窯洞を工房として転用するようになった。また、伝統的作陶手法を用いる窯元では、饅頭窯が継承され、窯から煙が立ちのぼる景観も継承されている。
3) 歴史的景観に調和した窯洞や饅頭窯が新築されている一方で、コンクリート造の水簸設備やガス窯など、歴史

Fig.8 The present situations of distributions and sales methods of each pottery of Yaotou village

の景観と調和しない施設も付加されている。

5 堯頭村における陶磁器の流通・販売手法

5.1 流通・販売手法の実態

窯元や展示室への調査により陶磁器の流通・販売手法を把握し、総括図及び各窯元の現状図を作成した (Fig. 8)。流通・販売手法は、以下の4通りに分けられる。

- 1) 見本市での予約販売：政府や行政が関与する大規模な見本市や博覧会において、製品の見本を展示し予約販売する手法。基本的には、選出された窯元のみが出展できる。
- 2) オンライン (Wechat、ホームページ) での販売。
- 3) 企業や行政向けの営業販売：政府や企業による賞や贈答品、ホテルによるインテリアや食事提供用の陶磁器など、企業や組織を顧客として大口注文を請け負う手法。
- 4) 展示室・売店での販売：(1) 直売：窯元併設店舗、老街、観光管理センター、地域外にある展示室や売店で、直接販売する方法。(2) 予約販売：窯元併設の売店、老街にある展示室・売店において、見本を展示し、注文を受けてから職人が作陶する方法。

5.2 窯元タイプごとの流通・販売の現代化の特徴

上記の流通・販売手法は、窯元の作陶手法や陶磁器の種類・デザインと何らかの関係があると考え、前章の窯元類型に基づき考察を行う。

まず、**タイプ i** (窯元③) によって生産される磁器は、その芸術的価値が広く認められ、窯元併設及び老街の展示室での販売に加えて、政府や行政から支援を受け、地域外の展示や見本市に出展する機会が多く、直売や予約販売が多いと考えられる。また、少数ではあるが、県と地域外の企業からの受注販売も請け負っている。

タイプ ii (窯元④⑤) は、現在、窯元併設の展示室や観光管理センターに加えて、地域外にも自営の展示室・売店を設置している。また、窯元の敷地が広く中庭での展示・販売が可能であり、さらに、飲食・宿泊施設も併設され、地元の高校生や観光客を対象に作陶体験などの普及活動も行っている。これらの施設や活動は、堯頭村の窯業及びその知識や歴史を、地域内外の人に広く普及するのにも有効な手段である。集落内の展示室や売店では、特に祝日や大型連休

中の観光客による土産品の購入が多く、時期や季節による偏りが大きい。また、割合は少ないが、集落の住民向けに贈答用の湯のみや急須などの販売も行なっている。このタイプの窯元は、現代的手法により現代の需要に合わせた現代的種類・デザインの磁器を中心に生産し、上記に挙げた手法の他、県や地域外の企業からの受注販売、オンライン販売を含む多様な販売・流通手法を用いている。

タイプ iii (窯元①②⑥⑧) のうち、窯元①⑥⑧は個人型の窯元であり敷地が狭く、このうち窯元⑥⑧は、敷地に展示室を設置していない。また、出稼ぎの経験などから、地域外の人脈が豊富である。これらの理由から、窯元①⑥では、Wechat (無料インスタントメッセージングアプリ) などを使ったオンライン上での販売を積極的に用いている。窯元⑧は、新設直後に調査を実施したため、当時は販売が始まっていなかったが、将来的にオンライン販売をする可能性は高い。オンライン販売の場合、作陶の進捗状況や磁器の情報の発信が容易かつ、購入も気軽にできる。また、費やした時間や品質などに応じて、窯元側が比較的自由に価格を設定できる点が優れている。しかし、地域外の人が集落を訪れないために、実際の生産環境や工程及び集落景観や土地固有の文化を知り、深く理解することが難しい。一方で、窯元①②⑥は、展示室で観光客向けの販売も行う。特に、窯元①に併設の展示室では、伝統的な作陶設備や作陶工程が紹介され、ガイド付の観光客がよく訪れる。また、窯元②は、企業や行政向けの大口の営業販売も行っている。その他の特徴として、窯元①②⑥は、住民に対して、無償で不良品の磁器を提供する。伝統を継承しつつ、現代的な磁器を生産するこのタイプについては、窯元の個性が強く、その特徴を総合的に述べることは難しいが、オンライン販売と観光客向け販売の積極利用は、その特徴の一つである。

タイプ iv (窯元⑦) は、調査当時は、老街の展示室のみで磁器を販売していたが、経営者の年齢は若く、窯元⑥の職人と同様、集落外での出稼ぎにより形成した豊富な人脈を生かし、今後はオンライン販売を利用する可能性があるかと推測できる。

以上の考察を踏まえ、堯頭村における陶磁器の流通・販売の現代化の全体的な傾向を以下のように整理できる。1) 若い職人・経営者を中心に、オンライン販売が普及し始めており、また、この手法を利用するいくつかの窯元は個人経営で敷地が狭く、敷地内に展示室

Table 3 Influence of modernization of ceramic industry on historical landscape of Yaotou village

3章 生産環境 /Chapter 3 Production Environment		4章 種類・デザインと作陶手法 /Chapter 4 Types of pottery and production methods		5章 流通・販売手法 /Chapter 5 Distribution and sales of pottery	
産業の現代化 The Modernization	・経営形態の変化（家族経営から企業型・個人型窯元へ移行）/Changes in management structure (clan-enterprise or self-employment) ・敷地の拡大（企業型窯元）/The expansion of land use (enterprise) ・生産環境の整備（窯元の中庭及び建造物外観）/Improvement of production environment (courtyard and building's appearance of pottery) ・窯元は老街や観光向け施設を含む旧生活エリアに立地 /Changes in the production area (joints protection-residential district and old street) ・窯元敷地内の施設が多機能化（観光客向けの展示施設、職人の休憩室等）/Multi-function facility in pottery (Visitor-oriented exhibition facility, craftsman's lounge, etc.)		・現代の生活スタイルに合う製品の増加 /The expansion of modern products' scale ・作陶工程は伝統を継承しつつ、工程ごとに別の職人が担当 /Inheritance of traditional technology; division of labor cooperation ・生産設備の現代化（ガス窯と機械設備の導入、生産設備の動力化により自然環境への依存度が低下）/Modernization of production equipment (The dependence on natural resources is reducing due to the introduction of gas kiln and modern machinery)		・オンライン販売の導入 /Online sales ・観光客向けの展示室・売店の整備 /Sales in exhibition room, store sales ・顧客層の多様化 /Diversification of a customer
	歴史的景観への影響 /Influence on historical landscape				
1) 集落全体 Village structure	・旧生産エリアは遺跡として凍結的に保存され、窯元の再生はみられない /Former pottery area as the Historical ruins protection ・再生された窯元は、旧生活エリアに点在し、階段状の地形を利用した旧生産エリアの作陶景観は消失 /Regenerated pottery are scattered in the former living area, and the former landscape gathered in one production area was disappeared ・生産エリアと生活エリアの区分は消失 /The disappearance of the boundary between living and production area ・旧生活エリアにおいても、地形を利用した作陶空間が形成（ただし、2層を利用する形式から、1層のみの利用へ変化）/Formation of production space in old living area because of using of terrain (Utilization form was changed from vertical space into complanation)				・なし none
2) 生産エリア Production area	地形 Topography 敷地の構成 Site layout	・「窯元の敷地について」 ・自然環境に即しての作業（水盤、原料の乾燥等）の中心へ移動・集中に伴う作陶景観の変化（全窯元） ・窯元生産設備は、中庭へ移動・集中し、工区に別々の職人が担当 /Inheritance of the spatial structure (all potteries) ・窯元の敷地拡大により、道路側にも建物が増え、「半囲み」から「全囲み」の敷地構成に変化（企業型窯元） ・窯元2/4/5 /Pottery's land scale was expanded, its form was changed from semi enclosed space to enclosed space (2/4/5) ・中層の窯元が、敷地内に細い坂道を有し、下層と接続していたかつての状況から、メインの道路と接続するように変化（2/3/4/5） /The pottery is directly connected to the main road (some potteries were connected to paths before) (2/3/4/5)			・「窯元の展示室について」 ・窯元中庭に非伝統的な屋外展示空間の増築（4/5） ・新築の建造物（コンクリート造の沈砂池）新築（2/3/4/5） /New construction of a non-traditional style building (concrete sedimentation pond, etc.) in the courtyard (4/5)
道路との関係 Relationship with a street	なし none				・なし none
歴史建造物の活用・転用 Reuse of historic building	従来の生産施設である窯洞（1/3/6）や饅頭窯（1/3）の継承 /Cove used for production facility (1/3/6) and kiln in the shape of steamed bun (1/3) was inherited 旧民家、旧窯元（一部窯洞形式）、集落施設を窯元の施設に転用・活用 /活用（1/2/3/5/7/8） /Some buildings were effectively utilized to the pottery facility, including traditional dwelling house, public facility and so on (1/2/3/5/7/8)				・窯洞（旧小学校、旧民家等）を観光客向け展示室として転用（1/2/3） ・中庭へ非伝統的様式の建造物（コンクリート造の沈砂池）新築（2/3/4/5） /New construction of a non-traditional style building (concrete sedimentation pond, etc.) in the courtyard (2/3/4/5)
建造物の新築 New construction (a) 伝統 Traditional (b) 現代 Modern	窯洞（工房、展示室、事務室、レストランなど）の新築（2/4/5/7） /Newly-built cave dwelling/workshop space, exhibition room, office, restaurant, etc.) (2/4/5/7) 饅頭窯の新築（2/3/6） /Newly built kiln in the shape of steamed bun (2/3/6) 中庭へ非伝統的様式の建造物（コンクリート造の沈砂池）新築（2/3/4/5） /New construction of a non-traditional style building (concrete sedimentation pond, etc.) in the courtyard (2/3/4/5)				・展示室のための窯洞の新築（4/5） /Newly-built cave dwelling (exhibition room) (4/5)
		現代の作陶手法導入により、非伝統的なガス窯（工房内）やコンクリート造沈砂池（窯元中庭）の新築（2/3/4/5） / New constructions of non-traditional style buildings (concrete sedimentation pond, etc.) in the courtyard due to the introduction of modern production method (2/3/4/5)			

を併設することが難しい。2) 現代的な経営形態である企業型の窯元の購買者属性は、企業や行政を顧客とする大口の営業販売から、観光客まで幅広い。3) 陶磁器の芸術性と職人の技術レベル（国家や省からの認定）が高ければ、見本市などへの出展機会を多く与えられる。4) 集落の観光地化が進み、全窯元が、観光客に対して、一定程度陶磁器を販売している。

5.3 流通・販売の現代化による集落の歴史的景観への影響

流通・販売の現代化に伴い、窯元が販売・展示のための施設を増設する際に、生産エリア（一部は、伝統的様式の窯洞を増築する、廃屋化していた旧小学校・旧民家などの窯洞を修復する、などの歴史的景観の保全に貢献する行為がみられる一方で、中庭に非伝統的様式の簡易な展示スペースを設けるといった事例もみられる。

他方、老街では、歴史遺産保護や観光開発の進展により、通り沿いの店舗建築の修復や、銀行や宗族の祠堂、廟などのランドマークに関してもかつての空間構成及び建築材料を用いた復元整備が進み、これらは窯元展示室・売店としての機能も持ち、陶磁器の販売・流通が盛んに行われた往時を想起させるものである（Photo4）。

6 結論

本稿では、かつての陶磁器の一大生産地中国陝西省堯頭村を対象に、再興しつつある伝統的窯業の生産環境（3章）、作陶手法や陶磁器の種類・デザイン（4章）、販売・流通手法（5章）の現代化について調査し、経営形態の変化、生産・販売環境の整備、製品（陶磁器）の多様化、また、販売手法及びターゲットの多様化の経緯や要因、詳細な実態を明らかにした。その上で、このような窯業の現代化による歴史的景観への影響を考察した。本研究の結びとして、集落全体、町並み、敷地という3つの空間スケールを設定し、それぞれに対する窯業の現代化の影響を考究する（Table3）。

第一に、集落全体の空間構成として、窯元は老街や観光拠点周辺に偏って再興している。これは、窯業の自然環境への依存度の低下、観光客のアクセスなどが影響している。遺跡として凍結的な保存が進められる旧生産エリアや、住民の新村移住で空洞化の著しい旧生活エリアを有する堯頭村において、現代化された窯業の再興は、よりいっそう老街や観光拠点の強化を促してゆくものと考えられる。

第二に、町並みスケールとして、面的に広がりを持って再生されているのは、歴史遺産保護（リストへの記載や修復への補助制度）や観光開発のために整備された商業集積地の老街である。2層で構成された老街では、最盛期と同様、通りの両側に店が並び、上層（老街Ⅰ）の復元

された店舗は、主に観光客向けの窯元の展示室・売店として活用されている。また下層（老街Ⅱ）でも、飲食店等への転用等もみられ、人々に賑わう景観が形成されている。一方、前述のとおり、老街以外の旧生産・生活エリアへの窯元再興の影響は限定的であり、現状では生活や生業を伴う面的な町並みの再生には至っていない。

第三に、敷地スケールでは、再興後の窯元の多くは、従来と同様に地形を利用した窯洞や饅頭窯及び合院式の空間構成が継承されている。また、多機能化に対応し、廃屋化していた建造物の活用・転用、従来の伝統的な建築材料・構法により饅頭窯や窯洞の新築がみられた。その一方で、特に規模の大きな企業型の窯元では、増築による敷地構成の変化（半囲みから全囲みへ）や、中庭での動力機械を用いた水簸や原土乾燥作業が、敷地の作陶風景を変容させている。

最後に、饅頭窯での焼成時に立ち上る煙や、販売・流通によって人々に賑わう老街の町並みの景観は、堯頭村の歴史的景観を文化的景観の観点で評価する際に重要な要素であり、窯業の現代化が進む中でも、これらは地域固有の景観として、保全する必要性が高いと考えられる。加えて、伝統的窯業には、地域の民俗・風習や地域コミュニティの存在も重要な要素であり、現在の生活エリアである新村住民の参画も重要な論点である。既存の保護計画には、こうした視点は欠けており、今後、現状把握のための調査研究が必要である。

Photo 4 The current Old Street and Lee Clan's ancestral temple (2018)

謝辞

本研究は、2018 年度「富士ゼロックス株式会社小林基金」の助成を得て調査を実施したものである。

注

- 注 1) 2012 年 9 月 25 日、中国住建部、文化部、国家文物局、財政部の 4 つの機関部門により、「關於加強傳統的集落保護發展工作的指導意見」が策定され、伝統的集落に関する定義が具体的に記載された。
- 注 2) 「歴史文化名鎮名村」は、2003 年に中国建設部と国家文物局が制定した文化財保護制度であり、文化遺産が豊富で歴史的価値を有する地域、また過去の伝統風情と地方民族の特色ある地域を対象とする。「中国伝統村落」は、2012 年、中国住建部、文化部、国家文物局、財政部の 4 部局による、伝統的集落を保護対象とする制度である。本研究の対象である堯頭村に限らず、両者の保護措置や保護・整備内容は同一または類似の場合が多いが、審査基準においては、後者の方が、歴史的建築物に限らず、地域の歴史、無形文化など、より幅広い点で地域を審査・評価する。ただ、制度が施行されてから 20 年弱経過していることもあり、条例などの制度も整備され、その効力については、前者の方が強い。
- 注 3) 2019 年 6 月に中国国家国务院が策定した農村地域の産業振興のための指導方針である。
- 注 4) 中国の陶磁器の分類によると、砂器は、陶器の一種である。
- 注 5) 窯洞は中国の陝西省閩中地方の北部によくみられる建築様式である。一般的には、山の斜面や崖に穴を掘る靠崖式と平坦な地面を堅穴の様に鉛直方向に穴を掘る下沈式に分けられ、堯頭村では、靠崖式が一般的である。
- 注 6) 現在の堯頭村は、22 ヶ所の自然村と 15 ヶ所の村民小組を含め、新村と旧村に分けられているが、1975 年以前の旧村は、鎮の行政の中心地である老街（商業地区）を中心とし、周辺に各宗族の自然村が広がっていた。その後、1975 年前後に、旧村の東側にある平坦な高地へと、行政の中心が移動し、新村が開発され、いくつかの自然村は、新村に移転した。
- 注 7) 全国重点文物保護単位は、中国の文化遺産保護制度の一つであり、遺跡・石窟寺院・歴史的建造物などの領域全体を 1 単位として指定している。
- 注 8) 参考文献 14) により、堯頭鎮の保護計画では、①東側の自家家廟から西側の西坂村までの範囲を、「核心保護区」(19.5ha) に指定しており、その中には、老街を含む生活エリア、現在は遺跡として保護されている生産エリアが含まれており、本研究の調査範囲である。②「核心保護区」の外縁 200m の範囲は、「建設制限区」とし、これには、原土採取地及び水簸の場所が含まれる。③集落全体は「環境調和区」である。以下に、「核心保護区」「建設制限区」の具体的な保護措置と保護・整備内容を整理する。
	核心保護区	建設制限区
保護措置	・文物保護法に従うこと
・生産エリアの遺跡において、新築と破壊、及び外観と周辺環境の改造は禁止され、伝統的景観に不調和な既存の建築物は撤去すること
・老街においては、かつての様式に基づいた歴史的建造物の復元は可能である。歴史的建造物の様式とは、建築物のファサードの色調(黄土色、黒又は朱)、軒高6m、2階建、建築材料(赤煉瓦、陶磁器の破片、黒瓦、黄土)のことを指す
・地形の改変は禁止とする
・観光客の入り込み数を制限する
・道路の幅員の変更はできない
・居住人口は2000人以内とすること
・インフラストラクチャ、観光施設の看板は歴史的建造物との調和を図る	・歴史的景観と調和しない新築と改築は禁止
・自然環境の破壊は禁止
・新築の場合は、景観を阻害してはならず、行政への申請が必要であり、その際は、核心保護区の歴史的建造物の様式に従うこと
・土地利用は、文物遺跡用地、住宅用地、農地に限ること
・歴史的景観に不調和な既存の建築物は修景し、ファサードの色調や軒高、建築材料については、核心保護区の様式規定に従う
・観光施設の看板は歴史的建造物と調和を図る
保護・整備内容	・遺跡エリアの饅頭窯や窯元などの文物保護単位は凍結保存
・老街の同型などの歴史的建造物の保護、修復、再利用
・道路舗装を整備
・インフラストラクチャの整備
・観光施設と看板の整備	・1980 年代以降の建築物の外観の整備
・道路舗装の整備
・観光施設、観光管理センターの設置
・インフラストラクチャの整備
- 注 9) 饅頭窯は中国の北方地区でよく使われる丸型窯である。
- 注 10) Fig. 2 の生産・生活エリアの境界線は、参考文献 9) 14) より、各作陶区の区分は、高齢の村民と管理センターへのヒアリング結果から示した。
- 注 11) 堯頭村における窯洞は、住居、作陶、商業など、多用途に利用される。
- 注 12) 参考文献 9) 13) 及び村民へヒアリングした結果により、かつての老街における陶磁器の販売・流通の様子及び店舗の概要を把握した。
- 注 13) 生産合作社は、中国農村地区において、農民あるいは住民が連合して組織した経済組織である。堯頭村では、1975 年以降、行政機構と公共施設が新村へ移転したため、旧村にある合作社の用地と窯洞が廃止されたが、近年、窯元⑦に再利用された。
- 注 14) 中国の「無形文化遺産」は日本の「無形文化財」に相当し、登録される伝承者（後継者）の区別は、国家級＞省級＞県級という構造である。

参考文献

1) Zhou, J.M.: Preservation and Development of Chinese Traditional Village, China Building Industry Press, 2014 (in Chinese)
周建明：中国伝統的村落一保護と発展，中国建筑工業出版社，2014

2) China State Council: Guidance on promoting the revitalization of rural industries, http://www.gov.cn/zhengce/content/2019-06/28/content_5404170.htm, (access 2019.12.1)
中国国务院：関与促進鄉村産業振興の指導意見，2019. 6

3) Haneda, A.: Changes in pottery and potters (writers), modernization of traditional crafts, Ochanomizu Shobo, 2003 (in Japanese)
羽田新：焼き物の変化と窯元・作家― 伝統工芸の現代化，御茶の水書房，2003

4) Hayase, D.: A Study on "Tradition" in "Crafts", University Art Education Society of Japan, Studies in Art Education, No. 49, pp. 321-328, 2017 (in Japanese)
隼瀬大輔：「工芸」における「伝統」に関する一考察，大学美術教育学会，美術教育学研究，第 49 号，pp. 321-328, 2017

5) Fang, L.L.: Yingdezhen in China: the Rising and Development of Private Ceramics Industry, Civilization 21, No.17, pp. 91-105, 2006. 12(in Japanese)
方李莉：中国景德镇新時代における民窯の再生とその実態，文明 21, No. 17, pp. 91-105, 2006. 12

6) Yamaguchi, T. and Matsumoto, S. and Nishiyama, N.: A Study on Sustain of Traditional Industry and Cultural Landscape in The Village of Onta Pottert (Sarayama), Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), Vol. 74, No. 644, pp. 2215-2222, 2009. 10 (in Japanese)
山口知恵，松本将一郎，西山徳明：小鹿田焼の里皿山における伝統的な生業の持続と文化的景観の保全に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第 74 巻，第 644 号，pp. 2215-2222, 2009. 10

7) Maruya, K. and Yamashita, S. and Uchiyama, T. and Ogawa, Y.: Transformation of Pottery-Relevant Cultural Landscape in the Village of Koishiwara, Journal of the City Planning Institute of Japan, Vol. 49, No. 1, pp. 83-92, 2014. 4 (in Japanese)
丸谷耕太，山下三平，内山忠，小川勇樹：小石原焼の里における作陶に関わる文化的景観の変容に関する研究，日本都市計画学会，都市計画論文集，Vol. 49, No. 1, pp. 83-92, 2014. 4

8) Todoroki, S. and Mori, C.: A Study on Space Composition of Pottery and Utilization of Spatial Resources in Shigaaki, Journal of the City Planning Institute of Japan, Vol. 48, No. 3, pp. 387-392, 2013. 10 (in Japanese)
轟慎一，盛千嘉：信楽町長野における窯元の敷地空間構成と空間資源の活用，日本都市計画学会，都市計画論文集，Vol. 48, No. 3, pp. 387-392, 2013. 10

9) Teng, T.: YaoTou Kiln Space Environment Research in the Perspective of Regionalism, Master Thesis of Xi'an University of Architecture and Technology, 2016. 6 (in Chinese)

10) Wang, X.: The research of protection and development of Yaotou village in Chengcheng county Shaanxi Province based on the concept of Eco-museum, Master Thesis of Xi'an University of Architecture and Technology, 2016. 6 (in Chinese)

11) Wang, H.H.: Study on the Conservation of the Kiln Stove Site in Ancient Times Take three kiln stove sites in Hunan, Jiangxi and Shaanxi as the example, Master Thesis of Xi'an University of Architecture and Technology, 2007. 6 (in Chinese)

12) Wu, R.: Comparative Study on the Characteristics of the Folk Pottery Art in Shaanxi, Master Thesis of Xi'an University of Architecture and Technology, 2009. 6 (in Chinese)

13) Li, D. and Liu, B.D. and Lei, J.S.: The Old town of Yaotou, 2015. 8 (in Chinese)
李徳，劉邦斗，雷景山：堯頭古鎮，2015. 8

14) Shaanxi Institute of Urban & Rural Planning and Design: Yaotou Historical and Cultural Town Conservation Plannning, 2013. 6 (in Chinese)
陝西省城鄉規画設計研究院：澄城堯頭歷史文化名鎮保護計画，2013. 6

15) Wu, L.B.: Thousand years of Yaotou's pottery of drawing list, Shaanxi Xinhua Publishing Media Group, 2016.6 (in Chinese)
呉来宝：千年堯頭窯精品図録，陝西新華出版伝媒集団，2016. 6

THE MODERNIZATION OF CERAMICS INDUSTRY IN CHINESE TRADITIONAL VILLAGES AND ITS IMPACT ON THE HISTORICAL LANDSCAPE

Yaotou Village in Guanzhong area of Shaanxi province

Yujia LIU^{*1}, *Yu OKAMURA*^{*2} and *Hikari KOMUKAI*^{*3}

^{*1} Ph.D. Candidate, Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, M.Env.

^{*2} Assoc. Prof., Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, Dr.Eng.

^{*3} Grad. Student, Dept. of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University, B.Tourism Science

In recent years, the revitalization and development of traditional industries has been taken into account in the preservation of traditional Chinese villages. At the same time, it is necessary to consider the impact of modernization on traditional industries, such as lifestyle changes, mechanization of production facilities, and tourism development. In this study, we selected Yaotou Village in Shaanxi Province as a research subject, which developed greatly in the traditional pottery industry during the Ming and Qing dynasties. The purpose of this paper is to clarify the modernization of the actual status of the production environment of the revitalized traditional pottery industry, methods of making pottery, types and designs, distributions, and sales methods. In addition, its influence on the historical landscape is clarified.

The following three points of revitalized pottery are clarified by field surveys and interviews with eight potters.

- 1) Due to changes in the management form of pottery since its revitalization, the site scale and use of kiln caves have changed from the past, but the spatial structure and architectural style in this region have been inherited.
- 2) On the one hand, local soil and production processes have been inherited. On the other hand, pottery facilities, tools, and work-sharing have become reasonable, and the types and designs of pottery have changed to adapt to people's modern lifestyles.
- 3) Potteries in this village are sold and circulated by appropriate methods such as modern communication and tourism.

In addition, we found that pottery contributes extensively to the preservation of the historical landscape in this village, such as conversion and reuse of related pottery facilities in the conservation of historic buildings, restoration of buildings by using traditional materials and construction methods, and new buildings in harmony with the historical landscape.

Moreover, we also found that the unique features could be regarded as a cultural landscape, such as smoke from kilns during the production process and the lively atmosphere of the old street due to sales and distribution.

(2019年12月10日原稿受理, 2020年4月21日採用決定)